

図1. 鹿児島大学付属病院: 医療専門職の役割と連携

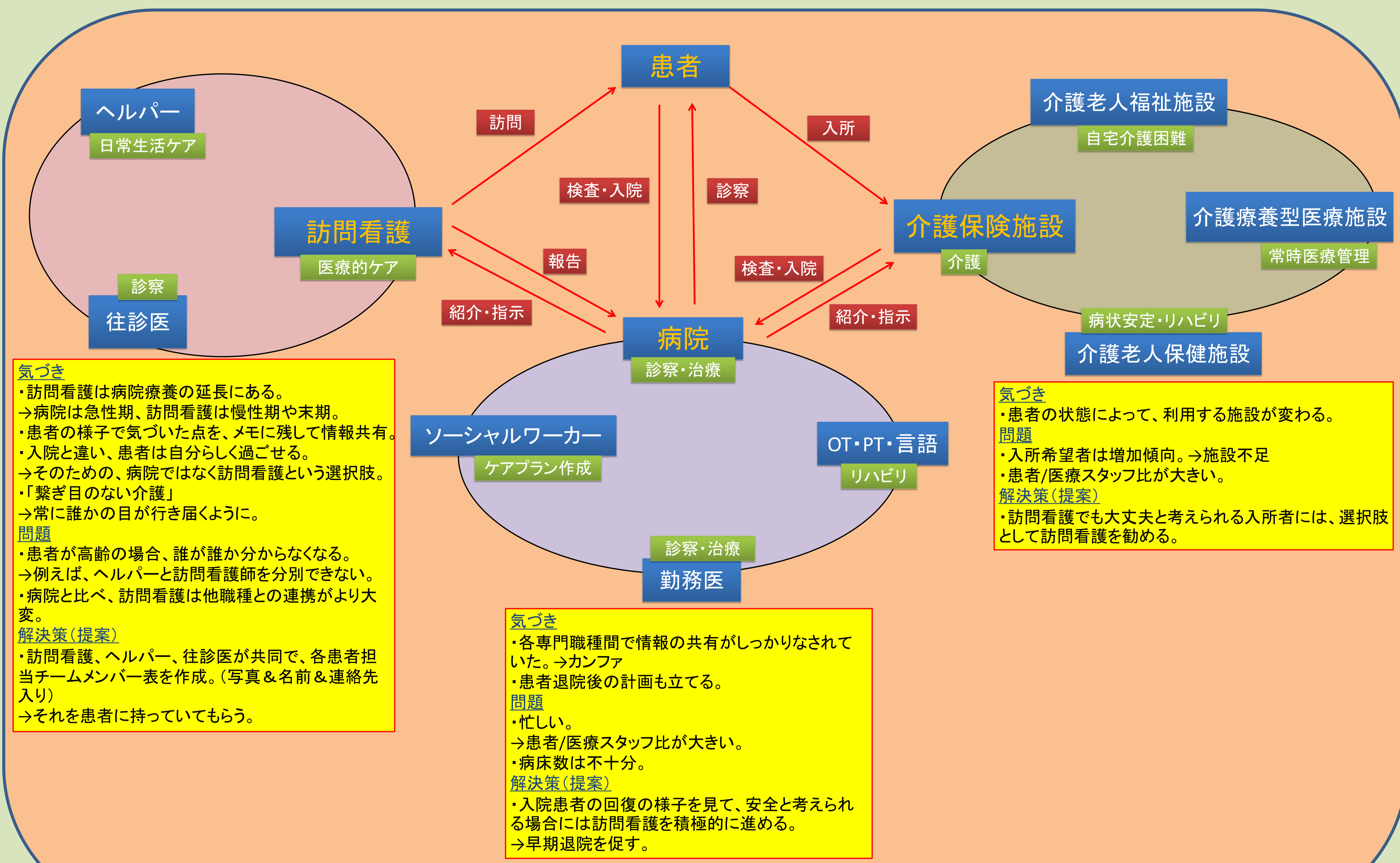


図2. 学外施設: 医療専門職(訪問看護・病院・介護保険施設)の役割と連携

- (2) 医療専門職の効果的な連携の目的、その連携はどのように行われることが望ましいか。**
- 患者への、よりきめ細かで、効率的な医療提供を目的としている。
 - 患者、そして各医療・福祉施設それぞれ特徴がある: ① 各施設が他施設の職内容を良く理解し合い、どの患者が・どの施設で・どの程度の処置を受けられるかを知っているという状況下で、さらに、② 自分の施設が、医療連携の中において担うべき役割を熟知しているという状況下で行われるのが望ましい。
- (3) チーム医療の現状における問題点とその解決方法**
- 他の医療専門職種の業務内容不理解からくる余労働がある。(例: 検査部-医師関係) → お互いの業務内容を知る場や機会を設ける。
 - 現在の罹患後の診療を中心とした医療連携システムは非効率的で、どの施設も患者数に対して医療スタッフの人手が足りてなかった。 → 罹患後の診療を中心としたチーム医療から、病気の予防を中心としたチーム医療にパラダイムシフトする。(例: 訪問看護の利用促進による患者の様子確認や生活習慣指導)
- (4) 医学生としてチーム医療を推進するために何を行うのか**
- 他の医療専門職種の業務内容を知る。 → これらの専門職とより効率的に連携を図りやすくなる。
 - 患者が希望するなら訪問看護を勧める等の他施設の有効な活用法を知る。 → 将来的に患者の生活視点で、アドバイスできるように準備する。